

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年11月 4日(金)発行 第 29 号 発行責任者:高橋 弘悦

がんばりました！ 西山小中駅伝大会



秋晴れの絶好のコンディションとなった2日、第5回目を迎える西山小中学校合同駅伝大会を行いました。

今年度から、授業への影響を考慮して午後の実施となりましたが、子どもたちは最後まで見事に走りきることができました。年々児童生徒数が減少してきていますが、その分、保護者の方や教職員が参加して、大変やりがいのある楽しい行事となってきています。

最近の傾向として、長距離や激しいスポーツを敬遠する傾向が高まってきています。昔は花形だった野球やバレーボール、バスケットボールでは部員集めに苦慮している学校も増えてきています。それに伴って、肥満が新たな問題としてわき上がってきていますが、この大会を見ている限り、西山にはその心配はないようです。

沿道の地域の方の声援を受けて、子どもたちは持てる力以上の走りを見せてくれました。保護者や地域の方の応援を受けて、子どもたちの健全な成長を確認することができた行事でした。他地域にはない、誇れる行事です。

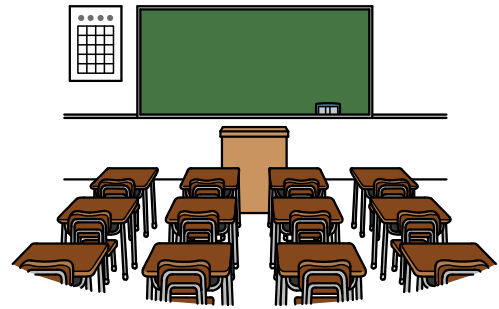
11月は学習向上月間に

定期テストⅡが終わったと思ったら、学期末テストの足音がひたひたと聞こえるようになってきました。3年生は特に受験に直結するテストということができます。いつにも増して十分な準備をして臨みたいものです。

定期テストⅡを終え、先生方の反省から聞こえてきたのは、本校生徒の学習習慣のなさです。「勉強しないことに抵抗がない」という感想を述べられた先生もおられます。持っている力はとても高いので、学習習慣のなさでそれを無にしてしまうのはとてももったいないことです。

朝歯を磨かないと何となく落ち着きません。同じように、家で勉強をしないと落ち着かなくなるような習慣はぜひ身に付けたいものです。

カレンダーを眺めると、11月は特に大きな行事もなく、学習に専念できる時期といえます。学習マラソンを計画するなどして、学習強調月間としていきましょう。学校では、生徒の学習強化月間にあわせ、授業研究も積極的に行い、わかりやすく効率的な授業に努めていきます。



ことばにすることに大切さ

「ここまで来られたことに、たくさんのサポート、ファンの皆さんの声に、すべてに感謝して、この舞台を楽しもう、やりきろう、よし！」

「長いのが来たら左に、短いのが来たら払う！」

先日、テレビでオリンピックの試合で選手のつぶやきを読む番組をやっていました。冒頭のもの、コートに入る前に深々と礼をする姿で有名になったバドミントンの奥原選手、その次のものが卓球の石川選手のもので、解説では「次に行くことを口に出していうことで、次に自分の行くことがより明確になる」と話していました。

「これは勉強にも通じるなあ」と漠然と考えながら番組を見ていました。「この時間は〇〇ができるようになる」「〇〇を覚える」と明確に意識することで、到達点が明確になり、そのことに専念できるようになります。

本校の授業では「目標」が授業の最初に明示されます。そしてその目標に照らして、1単位時間で何を目標に学習し、そして授業後に「何がわかったか、できるようになったか」がことばにできることを目標として授業を進めています。オリンピック選手の姿勢に倣い、到達すべき目標を明確にして授業に臨みましょう。

